

秋の気配

昼間、太陽が顔をのぞかせるとまだまだ30度を超え、汗が流れますが、朝夕は気温も下がり、過ごしやすくなってきました。秋の足音が少しずつ大きくなってきているようです。校長室横の砂利の間から、彼岸花が一輪だけ咲いています。植物は季節をよく知っています。特に彼岸花は毎年この時期になると一斉に開花します。自然とは不思議なものです。



新型コロナウイルス感染症も一時期ほどの勢いがなくなり、感染者数も減少傾向にあり、ほっとしているところです。しかし、油断は禁物です。感染対策を施し、少しずつ教育活動を再開していこうと思っているところです。季候もよくなってきましたので。

参観授業

本校の二人の支援学級担当教諭が、研修の一環として、校長・教頭に授業を公開しました。

かがやき学級担当は、3年生の国語の授業でした。絵本をもとに、挿絵を見ながら想像力を広げ、言葉と認識をつなげ、オリジナルの絵本をつくる授業でした。1対1の授業でしたが、児童とのやりとりの中、最後まで集中力を切らすことなく、物語の設定を考えることができました。



なかよし学級担当は、1年生二人の自立活動の授業でした。自分の気持ちを言葉で伝えるには、相手のことを考えて、自分の感情をコントロールすることが大事なことを学びました。二人とも、担任のことが大好きなようで、役割演技の場面もばっちりでした。こういう学習の積み重ねが、成長に繋がっていくので、大事な学習ができたと思ったところでした。



学級会

少し前にはありますが、6年生の研究授業もありました。学級会の授業でした。縦割班で行う内容をどうするかという議題でした。お互いに折り合いをつけながら話し合う姿に成長を感じました。また、司会者、書記といった役割の児童もうまく運営しており、担任のきめ細かな気配りが感じられました。この経験は、中学校へ行っての生徒会活動等にきっと役立つと思ったところでした。2学期の縦割班活動を楽しみにしています。

